

須賀川市事務事業における ユニバーサルデザイン導入指針

平成17年12月

須賀川市

市長公室企画調整課

目 次

序 章 指針概要	1
1 指針策定の趣旨	1
2 指針の位置付け	1
第1章 ユニバーサルデザインの概要	2
1 ユニバーサルデザインとは何か	2
(1) ユニバーサルデザインとは	2
(2) 考え方の出発点	2
(3) 7つの原則	3
(4) 実現へ向けた3つの基本姿勢	5
2 「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」	5
3 ユニバーサルデザイン導入の際の基本的な考え方	5
第2章 各種事務事業への導入	6
1 ハード面の整備	6
(1) 公共施設（サービス提供窓口など）	6
(2) 道路（歩車道など）	7
(3) 住まい（市営住宅など）	8
(4) 憩いの空間（公園など）	9
2 ソフト面の整備	10
(1) 情報伝達	10
(2) サービス	11
第3章 推進体制等	12
1 組織体制	12
2 実施状況の把握	12
3 導入行動計画の策定	12

序章 指針概要

1 指針策定の趣旨

現在、わが国では、世界史上例を見ない速さで高齢化が進行しており、そのため、高齢者や障がい者の方々が健康で安心して暮らせる社会をいかに形成するか、その対策が緊急課題となっています。

特に、すべての人にとって利用しやすい施設整備や、ものづくり等を推進するには、今までのように問題のある箇所について改修・修繕などを行うような事後的な対策では、時間的にも費用的にも負担が大きいと見られ、事前の対策が求められています。そこで、行政はもちろんのこと、事業者・市民をも含めた三者が共通の認識を持ち、それぞれの役割を自覚して取り組んでいくことが必要です。

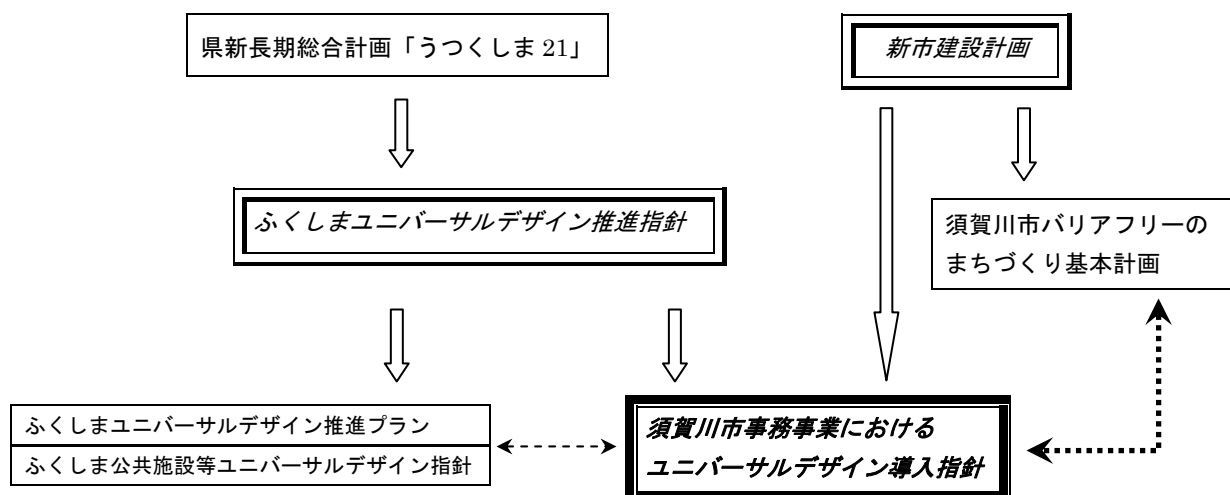
福島県においては、バリアフリーの考え方をさらに進めたユニバーサルデザインの考え方をあらゆる分野に取り入れるため、平成14年に「ふくしまユニバーサルデザイン推進指針」（平成16年改訂）を、また平成15年には「ふくしまユニバーサルデザイン推進プラン」（年次更新）、平成17年には「ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針」を策定し、県の主要施策の1つとして、県をあげての取組みを進めています。

市としては、このような県の取組みを踏まえ、どのような身体的機能の人でも、地域の中で安全に安心して生活でき、積極的に社会参加できる社会の構築を目指します。そのために、まずは市が行っている各種事務事業にユニバーサルデザインの考え方を取り入れることによって、事務事業の改善を進め、更なる市民サービスの向上を図るために、「須賀川市事務事業におけるユニバーサルデザイン導入指針」を策定しました。

2 指針の位置付け

本指針は県の「ふくしまユニバーサルデザイン推進指針」を上位指針とし、「新市建設計画」に基づく各種事務事業を推進するうえで、ユニバーサルデザインの考え方を導入するための基本的な指針とするものです。

また、各種施策を具体的に進める際には、「須賀川市バリアフリーのまちづくり基本計画」など関係する諸計画等との整合性を図りながら、推進することとしました。



第1章 ユニバーサルデザインの概要

1 ユニバーサルデザインとは何か

(1) ユニバーサルデザインとは

「ユニバーサルデザイン」は、「ユニバーサル（すべての、普遍的な）」と「デザイン（計画、設計）」の2つを組み合わせた言葉であり、

はじめから、

すべての人の多様なニーズを考慮し、

年齢、性別、身体的能力、言語などの違いにかかわらず、

すべての人にとって安全・安心で利用しやすいように、

建物、製品、サービスなどを計画、設計する

という考え方のことです。

(2) 考え方の出発点

ユニバーサルデザインは、次の2点が考え方の出発点となっています。

① 人間の多様性

人は、そもそも体格、性別、利き腕、身体的能力、言語など、あらゆる面で一人ひとりが異なっています。この「一人ひとりが異なっている」ということ自体が素晴らしいことであり、一人ひとりがかけがえのない個として尊重されるべき存在の証でもあります。その意味で、例えば身体などの障がいも、「背が高い」「右利きである」などと同様、人の数ある個性、属性の1つに過ぎず、特別なものとする必要はないものです。

② 健全状態の一時性

人はだれでも、けがや病気をしたり、事故に遭ったりする可能性や、重い荷物を持つことなどがありますが、この場合、身体に大きな負荷がかかり、階段を昇り降りするといった普段は何とも思わない日常的な動作に苦痛を感じる場合があります。

また、人はだれでも高齢期を迎えると身体能力などが減退し、若い頃と比べて日常生活に不自由を感じるようになるのが、一般的です。

このように、いわゆる「健全である」状態というのは、そもそも一時的なものに過ぎません。言い換えれば、「健全でない」状態というのは、特定の人だけが経験することではなく、だれもがごく普通に経験し得ることなのです。

従来も行政は「公共の福祉」のため、すなわち市民全体の利益のために活動してきたことは言うまでもありません。高い経済成長の下、都市化が急速に進み、ものは作れば売れた時代であったので、効率性が重視され、利用者の利便性はあまり重視されませんでした。これ

は、民間事業者に限らず、行政においても同様でした。若い健常成人男性をいわゆる「平均的な人（ミスター・アベレージ）」として設定し、その人たちの利用を念頭において建物、製品、サービスなどの計画、設計を行っていました。しかし、実際には人それぞれ身体的能力に差があり、また、いつも健常状態であるわけではないことを考え合わせると、これが必ずしも適当でないことがわかります。

このため、さまざまな個性・属性を持った多様な人が社会を構成しているという現実を認め、はじめから、高齢者、障がい者、子ども、妊娠中の女性、外国人など、すべての人の利用を念頭に置き、すべての人が生活・活動しやすい環境づくりを進めていくというユニバーサルデザインの考え方が生まれ、注目を集めるようになりました。

(3) 7つの原則

ユニバーサルデザインの考え方は、次の「7つの原則」から構成されています。これらの原則に照らし、日常生活を再点検してみるとユニバーサルデザインを考える出発点です。

原則1：だれにでも公平に利用できること

定義：だれにでも利用できるように作られており、かつ、容易に入手できること。

- 基本要件：○ だれもが同じ方法で使えるようにする
- 差別感や屈辱感が生じないようにする
 - だれもがプライバシーや安心感、安全性を得られるようにする
 - 利用者にとって魅力あるデザインにする

原則2：使う上で自由度が高いこと

定義：使う人のさまざまな好みや能力に合うように作られていること。

- 基本要件：○ 使い方を選べるようにする
- 右利き、左利きどちらでも使えるようにする
 - 正確な操作がしやすいようにする
 - 使いやすいペースに合わせられるようにする

原則3：使い方が簡単ですぐわかること

定義：使う人の経験や知識、言語能力、集中力に関係なく、使い方が分かりやすく作られていること。

- 基本要件：○ 不必要に複雑にしない
- 直感的にすぐに使えるようにする
 - だれでも分かる用語や言い回しにする
 - 情報は重要度の高い順にまとめる
 - 操作のためのガイダンスや操作確認を、効果的に提供する

原則4：必要な情報がすぐに理解できること

定義：使用状況や、使う人の視覚、聴覚などの感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に伝わるように作られていること

基本要件：○ 大切な情報を十分に伝えられるように、絵や文字、手触りなど異なった方法を併用する

- 大切な情報はできるだけ強調して読みやすくする
- 情報をできるだけ区別して説明しやすくする（やり方を口頭で指示しやすくなるように）
- 視覚、聴覚などに障がいのある人が利用しているさまざまなやり方や道具でも、情報がうまく伝わるようにする

原則5：うっかりミスや危険につながらないデザインであること

定義：ついうっかり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られていること

基本要件：○ 危険やミスをできる限り防ぐ配慮をすること

- 危険なときやミスをしたときは警告を出す
- 間違っても安全のように配慮する
- 注意が必要な操作を意図せずにしてしまうことがないように配慮する

原則6：無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること

定義：効率よく、気持ちよく、疲れないで使えるようにすること

基本要件：○ 自然な姿勢のまま使えるようにする

- あまり力を入れなくても使えるようにする
- 同じ動作を何度も繰り返すことを、できるだけ少なくする
- 身体に無理な負担が持続的にかかることを、できるだけ少なくする

原則7：アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

定義：どんな体格や姿勢、移動能力の人にも、アクセスしやすく、操作がしやすいスペースや大きさにすること

基本要件：○ 立っていても座っていても、重要なものは見えるようにする

- 立っていても座っていても、あらゆるものに楽に手が届くようにする
- さまざまな手や握りの大きさに対応する
- 補助具や介助者のためのスペースを十分に確保する

これらの原則に従い、ものを開発・製造することで、製品を使うために必要な身体機能のレベルをより下げることができ、その結果、その製品を使える人が増加し、また、使うことができている人にとっても、より一層使いやすくすることができます。

(4) 実現へ向けた3つの基本姿勢

基本姿勢1：あらゆる利用者の視点に立って発想すること

ユニバーサルデザインは、ある一定の一部の人ではなく、その施設やサービスを利用するあらゆる人々が対象です。そのため、その実現を目指すには、様々な人々の視点に立って発想することが重要となります。

基本姿勢2：場当たりのでなく、中長期的な視点を持つこと

これからの新規事業においては、はじめからユニバーサルデザインの考え方を取り入れて計画する必要があります。また、はじめから取り入れることにより、将来的に改修や修繕を行う必要が少なくなり、コスト削減効果や、環境保全効果も見込まれます。

基本姿勢3：絶えず改善へ取り組むこと

ユニバーサルデザインは、あらゆる人にとっての利便性を高めることが目的です。そのためには、常に現状を見直し、さらに利用しやすくするにはどうしたら良いか、という視点を失ってはいけません。つまりユニバーサルデザインとは、あらゆる人の暮らしやすさを追及する、終わりなき取り組みなのです。

2 「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」

「ユニバーサルデザイン」と比較される考え方に「バリアフリー」があります。現在、市では既存の公共施設についてバリアフリーの考えに基づき、改修・修繕を行っているところですが、バリアフリーの取組みはまだ十分とは言えず、引き続きバリアの解消に努めます。

一方、ユニバーサルデザインは、バリアフリーの考え方と重複する点もありますが、はじめからバリアをつくらず、すべての人にとって利用しやすいものを目指すので、人権の尊重につながることはもちろんのこと、完成後の手直しの必要がない分、長期的に見て費用を抑えることができます。

3 ユニバーサルデザイン導入の際の基本的な考え方

ユニバーサルデザインはすべての人が利用しやすくなることを目指しますが、現実には人それぞれ身体的能力が異なり、例えば全盲の人と弱視の人ではユニバーサルデザイン対策が異なるなど障がい間での調整も必要となることから、実現は困難なことです。ユニバーサルデザインを単なる理想論として終わらせないため、「今までより多くの人が使え」施設整備、サービスの提供を目指し、利用できる人を増やしていくことが現実的です。この手法はサービスを利用できない人の切り捨てという見方もありますが、福祉サービスの対象者を相対的に減らすことになり、必要な人への福祉サービスの質を高めることができます。

第2章 各種事務事業への導入

各種事務事業へユニバーサルデザインの導入を推進するために、ユニバーサルデザインの7つの原則を基本として利用者の立場に立った「簡単・快適・安全・柔軟」の4つの視点から各種事務事業をチェック、評価し、計画的に改善を図っていきます。

また、公共施設等の整備（計画・設計・施工等）にあたっては、県の「ふくしま公共施設等ユニバーサルデザイン指針」の活用を図っていきます。

1 ハード面の整備

(1) 公共施設（サービス提供窓口など）

推進方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 建築の計画段階で利用者のニーズの把握を行う。 ② 供用開始後に施設利用全般に関するモニタリングを行う。 ③ モニタリングの結果を受け、問題点の検討や情報収集を行い、今後の公共施設などの整備に生かす。
------	---

【考えるべき4つの視点】

簡単	<ul style="list-style-type: none"> ① 建物周辺の道路から建物の入口へ、また建物の入口から行きたいところへといたった経路が分かりやすいか。 ② 施設内のトイレや休憩室などが分かりやすいか。 ③ 施設内に設置された各種設備類が位置や使用方法を含め操作しやすいか。
快適	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設内の設備などは、かがんだり、背伸びしたりといった無理な姿勢をすることなしに利用できるか。 ② 施設内の各室への出入りはスムーズにできるか。 ③ スロープをはじめ各種設備類がさりげなく設置されているか。 ④ 施設内の各室だけでなく、エレベーターや廊下、駐車場なども十分な広さが確保されているか。 ⑤ 施設内外に、気軽に利用できるトイレやベンチ、休憩所などの空間があるか。
安全	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設内外では、廊下や駐車場での見通しに配慮するなど、不用意に人や突起物などにぶつかることがないか。 ② 建物は、人体や環境に悪影響を与えるものが使われておらず、また地下水の保全などに配慮がされているか。 ③ 必要などところにデザインに配慮された手すりが設けられているか。 ④ 災害などの緊急時を想定した安全面での対策が十分になされているか。
柔軟	<ul style="list-style-type: none"> ① 椅子やベンチ、水飲み場、電話など施設内に複数設置されるものは、違う高さのものや設置、トイレには小児用小便器の設置など様々な利用への対応がされているか。

(2) 道路（歩車道）

推進方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 道路整備の計画段階で歩行者や車利用者のニーズの把握を行う。 ② 供用開始後に道路利用状況全般に関するモニタリングを行う。 ③ モニタリングの結果を受け、問題点の検討や情報収集を行い、今後の道路整備に生かす。
-------------	---

【考えるべき4つの視点】

簡単	<ul style="list-style-type: none"> ① 歩道はできるだけ平坦で、アップダウンなどを少なくしているか。 ② 歩道、車道とも地理不案内者であっても目的地への経路が分かりやすいか。
快適	<ul style="list-style-type: none"> ① 道路は、歩行者も車利用者も利用していて心理的・肉体的に疲れにくい。 ② 目的地へは、予定した時間内で行くことができるか。 ③ 道路には、複数の経路が提示され、天候や時間などの状況により、利用者が選択できるようになっているか。 ④ 歩道には適当な間隔で木陰のある歩行者用ベンチ、また車道には停車スペースなどが確保され、休憩することができるか。
安全	<ul style="list-style-type: none"> ① 歩行者や自転車、自動車などの相互の交錯ができるだけ避けられており、交わる場合も衝突の危険性が少ないか。 ② 交通事故や災害などの緊急時の車両通行も想定した安全面での対策がなされているか。 ③ 道路は、透水性舗装や植樹帯の設置など環境への配慮がされているか。
柔軟	<ul style="list-style-type: none"> ① 車道を自転車道や歩道として利用するなど、状況に応じて臨機応変な使用ができるか。

(3) 住まい（市営住宅）

推進方法	① できる限り住まいに関するモニタリングを行う。 ② モニタリングの結果を受け、問題点の検討や情報収集を行い、今後の住宅整備に生かす。
------	--

【考えるべき4つの視点】

簡単	① スイッチやつまみ、レバーなどの操作がしやすいか。 ② 道路や駐車場から玄関までの移動がしやすいか。
快適	① 居室、トイレなど室内での寒暖の差が少ないか。 ② 家族全員及び来訪者が身体的な負担がなく利用できる機能や広さがあるか。 ③ 居室から寝室、居室からトイレなど、日常生活での移動がスムーズに行えるか。
安全	① 住居内ですまづくような不用意な段差がないか。 ② 災害など緊急時も想定した安全面での対策がなされているか。
柔軟	① トイレや浴室、洗面台、クローゼットなどは、様々な利用への対応がなされているか。 ② それぞれのライフステージに応じた使い方ができるなど、将来にわたって長く住むことができるか。 ③ 住人の状況に応じて、必要などころの改修や改造が比較的容易にできるか。

(4) 憩いの空間（公園など）

推進方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 幅広く利用が想定される者のニーズの把握を行う。 ② 公園や観光地などの利用全般に関するモニタリングを行う。 ③ モニタリングの結果を受け、問題点の検討や情報収集を行い、今後の憩いの空間整備に生かす。
------	---

【考えるべき4つの視点】

簡単	<ul style="list-style-type: none"> ① 初めて訪れた人でも、施設・設備の配置や距離などその空間の全体像をすぐに把握できるか。 ② 利用目的や利用者自身の体調や能力・体力などに合った情報が、分かりやすく示してあるか。
快適	<ul style="list-style-type: none"> ① 屋外でも休憩できるスペースが適度な間隔で配置されているか。 ② トイレや休憩スペースをはじめとする施設・設備を、だれもが気兼ねしないで利用できるか。 ③ トイレや休憩スペースなどの設備が屋外であっても、清潔に保たれており、気持ちよく利用できるか。 ④ 住んでいる場所から歩いていける範囲に気軽に人が集まり、くつろげる場所や空間があるか。
安全	<ul style="list-style-type: none"> ① 屋外では、地形・自然環境からの注意箇所や危険箇所の情報が様々な形で提供されており、災害など緊急時の避難場所が確保されているか。 ② 歩行・自転車・自動車などの交通手段ごとの交錯が可能な限り避けられており、交わる場合でも衝突の危険性が少なくなるよう配慮されているか。 ③ 施設・設備も含めて憩いの空間全体が、景観に配慮されており、周辺環境に悪影響を及ぼしていないか。 ④ 外部からの見通しなどに配慮されており、犯罪発生の危険性が少なくなるよう配慮されているか。
柔軟	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の状況や目的、あるいは季節や天候などに応じて様々な利用ができるか。

2 ソフト面の整備

(1) 情報伝達

推進方法	<ul style="list-style-type: none">① 発信する情報ごとに受け手がほしい情報の内容やその伝達のための媒体・時期などのニーズの把握を行う。② 発信した情報が正確かつ効果的に受け手に伝わっているかを（継続的に発信する情報であれば定期的に）評価し、その結果についてフィードバックを行う。
------	---

【考えるべき4つの視点】

簡単	<ul style="list-style-type: none">① 言葉は、できる限り平易な言い回しで、かつ、明快な文字、明瞭な音声などで伝えられており、理解しやすいか。② パソコン、携帯電話などの情報機器は直感的に使用方法が分かるなど操作が容易であるか。③ 自分がほしい情報がどのようにしたら手に入るかが分かりやすく、しかもリアルタイムで入手できるか。
快適	<ul style="list-style-type: none">① 情報はその重要度が高いほど、視覚、聴覚などできるだけ複数の感覚に同時に、また平等に訴えるように配慮されているか。② 必要な情報は、屋内、屋外など場所を問わず、どこにいても簡単かつスピーディに得られるか。
安全	<ul style="list-style-type: none">① 印刷物は、有害な成分が使われておらず、再生利用がしやすい環境面での配慮がなされているか。② 災害など緊急時における情報や危険を知らせる情報は、入手がしやすいような対策がなされているか。
柔軟	<ul style="list-style-type: none">① 得たい情報が、画像・文字・音声など、様々な情報提供方法の中から自由に選べるようになっているか。

(2) サービス

推進方法	① 受け手が求めているサービスの内容や程度といったニーズの把握を行う。 ② 提供したサービスが受け手にどのように受け取られたかといった満足度による評価を行い、その結果についてフィードバックを行う。
------	---

【考えるべき4つの視点】

簡単	① サービスの利用手続が簡素で、かつスピーディであるか。 ② 受けたサービスがどこでどのように提供されているかが、どこにいてもすぐに分かるか。 ③ 接客サービスでは、言葉遣いが丁寧でサービスの内容などが分かりやすいか。
快適	① サービスを受ける際に必要以上に待たされたり、たらい回しにされたりすることがなく、気持ちよくサービスが利用できるか。 ② サービス提供にあたっての接遇が親切で、自然な雰囲気であり、サービスを受けたいくなるような対応であるか。
安全	① サービスの利用によって事故や危険につながるようなことがないような配慮がなされているか。
柔軟	① サービスの受け手の状況や目的に応じて様々なサービスメニューが準備され、ほしいサービスが自由に選べるようになっているか。

第3章 推進体制等

1 組織体制

各種事務事業へのユニバーサルデザインの導入を推進し、かつ、その進行管理を行うため、「須賀川市ユニバーサルデザイン推進委員会」を組織し、推進に関する協議や、導入に関する進行管理を行っていきます。

2 実施状況の把握

ユニバーサルデザインの各事務事業への導入状況及び次年度以降の取組みを把握するため、各課（廃）からユニバーサルデザイン導入調書（別紙様式のとおり）を年1回提出してもらい、実施状況の把握を行います。

3 導入行動計画の策定

推進委員会においては、導入調書に基づき各事業内容を評価・検討のうえ、ユニバーサルデザイン導入行動計画を策定し、計画的な導入を推進していきます。

※ ユニバーサルデザイン導入チェックシート（ハード面）

分類		考慮すべき事項	配慮事項
高齢者 (低下している機能に応じて各種不自由者に準ずる)	身体機能の低下	骨格・筋力の低下	<input type="checkbox"/> 事故の起こりにくい計画（床材・段差・階段等）とする。 <input type="checkbox"/> 手すりを設ける。 <input type="checkbox"/> 負担の少ない設備機器や家具を採用する。 <input type="checkbox"/> 各種器具の寸法、取付位置に配慮する。 <input type="checkbox"/> 使いやすい家具や器具類の使用に配慮する。 <input type="checkbox"/> 自動化された機器を使用する。 <input type="checkbox"/> 階段の踏面、蹴上寸法、踊り場の形状に配慮する。 <input type="checkbox"/> 休憩スペースを確保する。
	感覚機能の低下	五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）の低下	<input type="checkbox"/> 明るく均整のとれた照明とする。 <input type="checkbox"/> 輝度が高い光源が直接目に入らないようにする。 <input type="checkbox"/> 足元灯を設ける。 <input type="checkbox"/> 明るく温かみのある色彩計画とする。 <input type="checkbox"/> 色による識別を確保する。 <input type="checkbox"/> 暖房の温度を高め設定する。 <input type="checkbox"/> お湯の温度を自動調節とする。 <input type="checkbox"/> 警報音の音は大きくし、低周波の音とする。 <input type="checkbox"/> 耳が聞こえにくくなり、大声で話し、テレビの音を大きくして聞くため部屋の遮音性能を向上させる。
	生理機能の低下	生理機能の低下	<input type="checkbox"/> トイレの位置や設備を工夫する。 <input type="checkbox"/> トイレ・浴室等の出入口は引戸とし、非常時の解錠に配慮する。 <input type="checkbox"/> 各室の温度差をできるだけ少なくする。 <input type="checkbox"/> 日照、通風等の良好な室内環境を確保する。
	認知症	判断能力の低下	<input type="checkbox"/> トイレの位置や設備を工夫する。 <input type="checkbox"/> 明解な動線、避難ルートを確保する。 <input type="checkbox"/> 設備の操作を自動化する。

分類		考慮すべき事項	配慮事項
肢体不自由者	車椅子使用	段差、急斜面の移動が困難	<input type="checkbox"/> 歩道の縁石、建物出入口の段差を解消する。 <input type="checkbox"/> 階段、歩道橋での移動ルートを確認する。
		車椅子キャスターのはまり込み	<input type="checkbox"/> エレベーターのカゴと床の隙間を小さくする。 <input type="checkbox"/> グレーチング（側溝の格子状のふた）の隙間を小さくする。
		移動困難、通行不能箇所	<input type="checkbox"/> 路面の凹凸や砂利道、ぬかるみ、未舗装の道をなくす。
		床と車輪の摩擦による移動・回転の困難	<input type="checkbox"/> 毛足の長いじゅうたんは使用しない。 <input type="checkbox"/> 畳は使用しない。
		回転スペースの確保	<input type="checkbox"/> 廊下の曲がり角、ドアの前後、ベッド周囲の広さを確保する。 <input type="checkbox"/> トイレブース内のスペースを確保する。
		通行幅の確保	<input type="checkbox"/> 出入口開口幅、廊下の幅を確認する。
		横方向への移動が困難	<input type="checkbox"/> カウンター、商品陳列棚、図書室の書架、自動販売機の形状や使用などを配慮する。
		移動時に両手がふさがる	<input type="checkbox"/> 雨の日に傘なしで移動できる内外空間とする。
		手の届く範囲が限定（低い）	<input type="checkbox"/> 棚、物入れ、引出し、公衆電話の高さを配慮する。 <input type="checkbox"/> エレベーターの操作ボタン高さ（床上 100cm 程度以下）
		手の届く範囲が限定（高い）	<input type="checkbox"/> 下方の引出し、コンセントの高さ（床上 35～100cm 程度）
		手の届く範囲が狭い（横方向や前後）	<input type="checkbox"/> 台所の棚、商品陳列棚、図書室の書架、水飲み台に車椅子のフットレストや肘受けがつかえない幅を確認する。
		膝、肘受けの高さが通常の座位より高い	<input type="checkbox"/> 机、テーブル、流し、手洗い器の下にスペースを確認する。
		車椅子からの移動スペースが必要	<input type="checkbox"/> ベッド、便器の周囲、浴室、駐車場でのスペースを確認する。
歩行困難		段差や斜面の移動困難	<input type="checkbox"/> 勾配の緩和や手すりを設ける。
		つまずきによる転倒の危険	<input type="checkbox"/> 路面の凹凸や段差の段鼻の形状を配慮する。
		杖先の滑り	<input type="checkbox"/> 床仕上げの考慮、砂利道、ぬかるみを排除する。
		杖先のはまり込み	<input type="checkbox"/> グレーチングの溝の隙間、エレベーターの隙間を小さくする。
		松葉杖の通行・回転スペース	<input type="checkbox"/> 廊下、出入口幅、トイレ内のスペースを確認する。
		しゃがめない	<input type="checkbox"/> 洋式トイレを採用する。
		手の届く範囲が限定（高い）	<input type="checkbox"/> 下方の引出しやコンセントの位置を工夫する。
上肢不自由		細かい作業が不得意	<input type="checkbox"/> 使いやすい家具、器具類を採用する。 <input type="checkbox"/> 機器を自動化する。
		握力等の力が弱い	<input type="checkbox"/> ドアの取っ手等のサイズ、操作しやすさ、開閉方法を配慮する。

分類		考慮すべき事項	配慮事項
視覚障がい者	全盲	位置、周囲の状況の確認が困難	<input type="checkbox"/> 道路、通路の形態、段差、溝、障害物等の確認方法を工夫する。
			<input type="checkbox"/> 案内方法を検討する。
			<input type="checkbox"/> 緊急時の対応設備を設ける。
		記述事項の確認が不可能	<input type="checkbox"/> 点字や音声による案内などを行う。
	弱視	小さい文字を読めない	<input type="checkbox"/> 大きな文字、読みやすい書体を採用する。 <input type="checkbox"/> 注意喚起のため色彩計画を工夫する。
色覚異常	色が見分けにくい 赤・青緑・青・赤紫が灰色に見える	<input type="checkbox"/> 判別しにくい色を使わない。	
視野狭窄	視野が狭い	<input type="checkbox"/> 周辺の事情やサインを認識しやすいよう配慮する。	
聴覚言語不自由	聴覚不自由	音が聞こえない	<input type="checkbox"/> 非常時の音声以外の情報伝達方法を検討する。 <input type="checkbox"/> 視覚による分かりやすい情報伝達方法を採用する。
	言語不自由	言葉が話せない	<input type="checkbox"/> ソフト対応を充実（人の配置など）する。
内部機能障がい者		疲れやすい	<input type="checkbox"/> 休憩スペースを確保する。 <input type="checkbox"/> 階段、スロープの勾配、形状を配慮する。
		体調の急変への対応	<input type="checkbox"/> 緊急時の対応設備を設ける。
		人工臓器での排泄への対応	<input type="checkbox"/> トイレの位置とトイレ設備を検討する。
知的障がい者		判断能力や理解力が弱い傾向	<input type="checkbox"/> 分かりやすい平面計画、色彩計画とする。
精神障がい者		疲れやすい	<input type="checkbox"/> 休憩スペースを確保する。
		対人関係が不得意	<input type="checkbox"/> ソフト面での対応のしやすさを確保する。
妊婦や乳幼児と一緒にいる人	子どもを抱いた人	一時的な子どもへの対応	<input type="checkbox"/> ベビーベッドの設置、託児スペースを設ける。
		授乳への対応	<input type="checkbox"/> 授乳室を設ける。 <input type="checkbox"/> 大きめの汚物入れなどを設ける。
	ベビーカー利用者	ベビーカーの配置	<input type="checkbox"/> ベビーカーを置く場所を設ける。
		移動性の確保	<input type="checkbox"/> 車椅子使用者と同様の配慮を行う。
妊婦		<input type="checkbox"/> 高齢者と同様の配慮を行う。	
子ども		理解力や判断力が一般的に低い	<input type="checkbox"/> 分かりやすい動線、サイン計画とする。
		機器のサイズや手の届く範囲が狭い	<input type="checkbox"/> 子どもが利用しやすい設備機器の位置、設備機器を工夫する。
		安全対策の充実	<input type="checkbox"/> 落下防止等の安全策を講じる。
その他	けがをした人		<input type="checkbox"/> 肢体不自由者に準じる配慮をする。
	大きな荷物を持った人		<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所、電話等時の荷物を置く場所を確保する。
	左利きの人	右利き用の機器が使いにくい。	<input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインか左利き用の設備機器を用意する。
	外国人	日本語が分からない	<input type="checkbox"/> 分かりやすいサインとする。
			<input type="checkbox"/> 外国語でのサイン、アナウンスを行う。
	日本式の設備が使えない	<input type="checkbox"/> 洋式トイレを採用する。	

※ 利用者のタイプ別特徴

【高齢者】

加齢が進むと、筋力の低下により、つまずきや滑りやすくなるなど「身体機能の低下」、目が見えにくくなったり、高音域が聞こえにくくなったり、温度感覚の反応が鈍くなるなど「感覚機能の低下」、頻尿や失禁などしやすくなる「生理機能の低下」、記憶力・判断力・理解力が低下し、新しい環境や機能などへの対応能力が低下するなど「心理機能の低下」といった症状が見られます。また、「痴呆症状」が現れることもあります。

【肢体不自由者】

上肢が不自由で細かい作業や操作が苦手である「上肢不自由」、自分の身体を支えたり、立ったり、座ったり、座位を保つことが困難である「体幹不自由」、歩いたり、立ったり、座ったりが困難な「下肢不自由」などが肢体不自由者に含まれます。建築計画上は移動時の歩行形態で、車椅子使用者と歩行困難者を分けて考える場合があります。

【視覚障がい者】

全く視力がない「全盲」、視力が弱く、暗いと物が見えにくい「弱視」、色の見分けが難しい「色覚異常」、見える範囲が狭い「視野狭窄」があります。

【聴覚障がい者・音声または言語機能障がい者】

音声聞こえない、または聞き取りにくい「聴覚不自由」、音声機能や言語機能が喪失され、場合によっては言葉が話せず、音声などにより意思を伝えにくい「言語不自由」などが該当します。

【内部機能障がい者】

心臓、腎臓、呼吸器官、ぼうこう、直腸、小腸の各機能障害により、日常生活活動が著しく制限を受け、人工臓器の対応を考慮する必要があります。また、疲れやすい傾向があります。

【知的障がい者】

一般的に、判断能力や理解能力が弱い傾向にあります。

【精神障がい者】

総合失調症、精神作用物質による急性中毒またはその依存症、精神病質その他の精神疾患を有する人が該当します。

【妊婦、乳幼児と一緒に親】

妊婦の場合、機敏な動作ができなくなったり、判断能力が衰えたりする場合があります。乳幼児は環境変化への対応能力が弱く、体調の変化や授乳等への配慮が必要となります。乳幼児と一緒に行動する場合、一般的に荷物が多くなる傾向があります。

【子ども】

一般的に判断能力や理解能力が弱く、設備機器利用の際の高さなどにも留意する必要があります。

※ ユニバーサルデザイン導入チェックシート（ソフト面：情報伝達）

媒体	項 目		
文 書	読みやすさ	<input type="checkbox"/> 文字の大きさは適切か。	
	分かりやすさ	<input type="checkbox"/> 文字間・行間は適切か。	
		<input type="checkbox"/> 適度に余白があるか。	
		<input type="checkbox"/> 難しい言葉や専門用語が使われていないか。 使われている場合、その説明は付いているか。	
		<input type="checkbox"/> カタカナ語を使う場合、説明は付いているか。 常用漢字以外は、ひらがな表記になっているか。	
		<input type="checkbox"/> 難しい漢字などには、ふりがなをふっているか。	
		<input type="checkbox"/> 写真、絵、表、箇条書きなどを活用しているか。	
		<input type="checkbox"/> 配色は適切か。むやみに色を使っていないか。	
		<input type="checkbox"/> 写真は適切か。説明文は付いているか。	
		さまざまな人が読むことへの配慮	<input type="checkbox"/> 人権尊重の視点から、文章や絵などに不適切な表現などはないか。 <input type="checkbox"/> 高齢者や障がいのある方の視点から、文章や絵などに不適切な表現はないか。 <input type="checkbox"/> 男女共同参画の視点から、文章や絵などに不適切な表現などはないか。 <input type="checkbox"/> 外国人の視点から、文章や絵などに不適切な表現などはないか。 <input type="checkbox"/> 肖像権・著作権に注意しているか。
	その他配慮すべき事項	<input type="checkbox"/> 問い合わせ先は明記されているか。(住所・電話 FAX 番号・E メールアドレスなどできるだけ複数の連絡法を明記する) <input type="checkbox"/> 印刷・製本は適切か。(有害な成分の使用の有無、リサイクルのしやすさなど)	
ホ ー ム ペ ー ジ	見やすさ	<input type="checkbox"/> 難しい言葉や専門用語が使われていないか。使われている場合、その説明は付いているか。また、その説明の表示位置は適切か。	
	分かりやすさ	<input type="checkbox"/> 背景と文字のコントラスト（明暗や色彩の対比）は適切か。	
		<input type="checkbox"/> 内容がわかるタイトル（見出し）がついているか。	
		<input type="checkbox"/> 各ページには必要に応じて 1 つ前に戻る「もどる」リンクを設定する。	
		さまざまな人が読むことへの配慮	<input type="checkbox"/> 画像ファイルには、代替テキスト（ALT 属性）を使用し、説明文は適切な表現になっているか。 <input type="checkbox"/> クリックブルマップ（クリックすることでリンクが開く地図）には文字によるリンクを同一ページに作成する。 <input type="checkbox"/> フレームの使用は必要最小限にする。 <input type="checkbox"/> 点滅したり動いたりする表現は必要最小限とする。 <input type="checkbox"/> プルダウンメニュー（カーソルを合わせることで開くメニュー）は必要最小限とする。 <input type="checkbox"/> 文字の大きさはできるだけ大きくし、サイズ指定は行わない。

媒体		項 目
ホームページ	その他配慮すべき事項	<input type="checkbox"/> さまざまなネットワーク環境に対応させるため、なるべく軽いページ（データ量が少ない）を作成するようにする。
		<input type="checkbox"/> 大きなファイルにはファイルサイズを記載する。
		<input type="checkbox"/> ファイルを添付する場合、さまざまな環境を考慮する。
		<input type="checkbox"/> 使用できる文字について配慮する。
		<input type="checkbox"/> キーボードだけでも、操作ができるようにする。
		<input type="checkbox"/> 特定の技術やプラグインに対応していないブラウザへの配慮を行う。
映像関係	見やすさ 聞きやすさ	<input type="checkbox"/> 映像は分かりやすいか。映像だけでも伝えたいことが分かるか。
		<input type="checkbox"/> 画面が短時間で切り替わっていないか。または、同じ場面がずっと続いているか。
		<input type="checkbox"/> テロップを多用していないか。テロップが長過ぎないか。
		<input type="checkbox"/> ナレーションは聞いて分かりやすい言葉になっているか。
		<input type="checkbox"/> ナレーションが、早すぎたり、遅すぎたりしていないか。
	さまざまな人が見ることへの配慮	<input type="checkbox"/> 人権尊重の視点から、文章や絵などに不適切な表現などはないか。
		<input type="checkbox"/> 高齢者や障がいのある方の視点から、文章や絵などに不適切な表現はないか。
		<input type="checkbox"/> 男女共同参画の視点から、文章や絵などに不適切な表現などはないか。
		<input type="checkbox"/> 外国人の視点から、文章や絵などに不適切な表現などはないか。
	その他配慮すべき事項	<input type="checkbox"/> 問い合わせ先は明記されているか。

※ ユニバーサルデザイン導入チェックシート（ソフト面：サービス）

		項 目
私人	立場	<input type="checkbox"/> 公務の特性（公益性・公平性・中立性・権力性・独占性）を理解し、市民への対応を行っているか
		仕事
	仕事	<input type="checkbox"/> 仕事の内容と範囲を熟知しているか。
		<input type="checkbox"/> 関係法令や規則を熟知しているか。
	仕事	<input type="checkbox"/> 関係する課・係、担当者を熟知しているか。
		性格
	態度	<input type="checkbox"/> 自分の長所及び短所を自覚し、高める努力をしているか。
		<input type="checkbox"/> サービス業にふさわしい身だしなみをしているか。
<input type="checkbox"/> 事務室及び机上是整理整頓されているか。		
<input type="checkbox"/> 相手の立場を考え、親しみやすい態度で接しているか。		
環境	職場	<input type="checkbox"/> 利用者にとって分かりやすい配置・案内となっているか。
		<input type="checkbox"/> 来訪者の心が和む、親しみやすい環境となっているか。